



29 屋根職

瓦のへねじれくによって、並べ方も変える



かわら
瓦で屋根を作るときは、雨漏りしないように防水紙を引いて、瓦^{かわらざん}を置いたり、土を引いたり、いくつかの工程を経て、最後は美しく見えるように瓦を並べていきます。今は、瓦だけではなく板金やコロニアルという材料を使うことも多いですが、<屋根職>はこれら含めた材料を使い、屋根を作っていくのが仕事です。とはいえ屋根は完成しても、あまり誰も見ないでしょう?だから

こそ私はデザインや機能性にこだわり妥協せず、これまでいくつもの屋根を作ってきました。そして常に、新しい技術を習得していくのです。その中で“腕を上げたな”と思えたら、ごほうびに新車に乗り換えるんです! そうやって、自分自身の士気・働く意欲を高めてきました。誰もがやる気があれば、腕を磨いていける仕事です。



プロフィール **安積 孝郎** あづみ たかお

屋根職一筋 27年

川崎市高津区出身。44歳。高校卒業後、滋賀県・近江八幡にある瓦店に入り、3年間住みこみで働く。最初の2年間は職業訓練校に通いながら、屋根職の技術を学ぶ。その後1年間、瓦店で働いた後、父親の安積瓦店で働き、現在は代表取締役として後を継ぐ。川崎市屋根組合長。現在は横浜市在住。

有限会社 安積瓦店(全日本瓦工事業連盟加盟店)

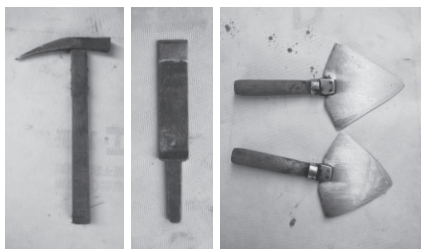
〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町218-1

TEL.045-962-2700 FAX.045-962-0177

活躍の場

工務店

瓦店



仕事道具3種

- 【金槌】^{かなづち} 屋根を作る際に、その大きさに合わせて瓦を割り、寸法を短くする時に使用(写真左)。
- 【瓦用の玄翁】^{げんのう} 屋根の寸法に合わせ、瓦を削る時に使う(写真中央)。
- 【いかゴテ】 瓦を並べる前には、土を置く。その土を平らにするために使うコテ。2枚1組(写真右)。



職人からのメッセージ

● 屋根職という仕事内容

屋根材を使って、施工していきます。今は屋根の材料は瓦だけでなく、板金やコロニアルなどを使うことも多いです。これらの材料を使って屋根を作ることも増えています。

必要資格

私は<1級かわらぶき技能士>や<2級かわらぶき技能士>の資格を持っています。試験では1級は“一文字瓦”を、2級は“万十瓦”を施工する実施が行われます。技術的にも1級の方がより難しくなりますが、屋根を作る仕事にはこれらの資格が必要になります。

● 一人前になるまで

5~10年はかかるでしょう。基礎的なことは5年くらいで覚えられるかもしれませんが、瓦は焼き物なので、瓦の<ねじれ>を一つ一つ見極めながら、並べ方や土の引き方も変えていかなければなりません。そういう技術をすべて覚えるには、やはり10年くらいかかります。

● 屋根職を目指す方へのアドバイス

学歴も関係なく、手に職の仕事です。体力的にもキツイですから、やる気があれば、どんどんできるようになります。誇りをもって、職人を目指してください。



● 屋根職という仕事の展望

東日本大震災以降、リフォームの需要がものすごく増えました。その時、若い職人が居なかったことで、業界全体で技術をもっと伝えて行こうとする動きが出てきたのです。だから今から目指す人にとっては、とても良い時期だと思います。今後も家がある限り、屋根職は必要な職種です。

この仕事に向いている人

冬は寒いし、夏も日差しが厳しいです。常に長袖で作業していますので、とにかく体力のある人が向いています。リフォームの時は、瓦を1枚1枚屋根からおろしたり、ほこりをとったり、たわしでこすったりなどの細かい作業もあります。忍耐力のある人が向いているでしょう。